



第 73 号

目 次

論 文

九世紀前半の東部ユーラシア情勢と唐の内治のための外交
—吐蕃との長慶会盟、ウイグルへの太和公主降嫁の背景— ……菅沼 愛語 (1)

明代市舶太監の創設とその変遷
—嘉靖期の裁革と税監の設置をめぐる— ……大川 沙織 (27)

載 録

檀上寛教授 略年譜・著作目録 …… (53)

桌 報 …… (61)

2 0 1 6 ・ 2

京 都 女 子 大 学 史 学 会

二〇一六年二月四日印刷
二〇一六年二月十日発行

史 窓

第七三号

京 都 女 子 大 学 史 学 会

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol. 73

February 2016

Contents

Articles

SUGANUMA Aigo, The Diplomatic Evolution in Eastern Eurasia in the
Early Ninth Century : A Global Background of Tang-Tufan Treaty
and Tang-Uighur Marriage Alliance …… (1)

ŌKAWA Saori, Establishment and Transition of Shi-bo (市舶) Eunuch
in Ming Dynasty: Withdrawal of Shi-bo (市舶) Eunuch in Jiaping (嘉
靖) Period and Dispatch Shuijian (税監) …… (27)

Biographical Notes and List of Works

DANJŌ Hiroshi …… (53)

Miscellaneous …… (61)

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES

Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-8931

表紙の題字は故那波利貞先生の筆。『史窓』
が活版印刷になり第5・6合併号を発行した
とき(昭和29年)御書きいただいたものです。

二〇一五年度 学会行事

春季学会旅行 三月二十七日(金)～二十八日(土)

淡路島・ことひら温泉

今回は、淡路島のバルシェでのお香作り体験や香川の栗林公園見学、金刀比羅宮への参拝、うどん学校でのうどん作り、倉敷美観地区での自由散策といった盛り沢山の旅行となりました。

一日目はまず、淡路島のバルシェでお香作り体験という貴重な体験をすることができました。その後、香川県へ入り、歴代の高松藩主が別邸とした栗林公園を訪れました。栗林公園では「一步一景」という一歩ごとに変わる景色を楽しむことができる大名庭園の見学をしました。また、金刀比羅宮では、千段以上の階段に疲れを感じながらも、本宮へたどり着いた時の達成感と、そこから見える市街の景色の美しさは格別なものでした。

二日目は、うどん学校でうどん作り体験を行なった後、岡山県の倉敷美観地区へ向かいました。ここでは自由散策の時間が設けられ、倉敷の風光明媚な景観を楽しみながら、土産物店や食事処を巡ったり、大原美術館を訪れたりする学生の姿も見られました。

新入生歓迎会 四月一日(水)

女坂の桜が咲き始める一方で小雨が降る中ででしたが、今年も無事に新入生歓迎会が行なわれました。今年は一三五名の新入生を迎えました。

慣れないスーツ姿で史学科の教室を探す姿、アドバイザーの先生から自分の学生証を受け取る姿に、私たち史学会委員一同は、かつての自分を見ているかのようにでした。アドバイザーの学生からの説明が終わった後、私たちも史学会の紹介と役員の自己紹介を行ないました。私たちが上回生の委員の方々の凛とした姿に憧れ、史学会委員となったように、皆

さんにとっても憧れられる上回生となるようになって、より一層引き締めた日となりました。新入生の皆さんにとって、これから始まる大学生活は初めてのことはかりで、不安に思うことや慣れないことがあるでしょう。その際には史学会委員を頼っていただけて幸いです。微力ながら、皆さんをサポートしていきたいと思えます。

新入生歓迎バスツアー 四月四日(土)

上賀茂神社・下鴨神社

史学科の新入生は本願寺参拝を終えた後、毎年行なっている新歓バスツアーに参加します。

本年度は、史学科の先生方と新入生のみなさんと、上賀茂神社・下鴨神社へ行きました。このバスツアーは新入生同士の交流を目的としており、道中のバスでは個性のあふれる自己紹介が行なわれました。マイクを持った新入生が、各々の出身地や趣味の紹介から史学科ならではの歴史の話にいたるまで語り出し、それに共感する声などが聞こえるようになると、緊張しきった雰囲気は漂っていた車内が一気になごやかなものとなりました。

上賀茂神社では各所で桜が咲き誇っていました。新入生が集って桜を背景にして記念撮影をしたり、参拝したりする姿からは当初の緊張は感じられず、少しずつ打ち解けているように見えました。また、下鴨神社では、宮司の方から境内や諸々の建物などの説明を受けながら見学をしました。そのなかでも十二単の着付けとその姿での舞の見学は、史学科の学生として特に貴重な体験となったのではないかと思えます。

春季公開講座 五月二二日(金)

J三二〇教室

インド皇帝戴冠式典と明治大正期日本
— 亡き皇帝を追慕するために —

本学教授 本田 毅彦

平安京遷都と堀川の成立

早稲田大学教授 川尻 秋生

夏季学会旅行 八月五日(水)～六日(木)

名古屋・飛騨高山

夏季学会旅行では、名古屋・飛騨高山方面へ向かいました。今回は郡上八幡にて食品サンプル作り体験を行なったり、白川郷荻町合掌集落や高山市内の古い町並みの見学をしたり、名古屋城・徳川美術館を訪れました。

一日目は、郡上八幡での食品サンプル作り体験を行ない、天ぷらとレタスの食品サンプルを作りました。会場内で展示されている食品サンプルは、本物と見まごうような精巧なつくりの物ばかりで、各所から驚嘆の声が聞こえました。次に訪れた白川郷荻町合掌集落では、突然の豪雨に見舞われるというハプニングもありましたが、合掌造りの家々に囲まれた閑静な地でゆったりとした時間を過ごすことができました。

二日目は、午前には高山市内の古い町並みを見学することから始まりました。土産物街で散策したり、高山陣屋や高山城跡を訪れたりなど、各々で自由な散策をしました。午後からは名古屋へ移り、名古屋城・徳川美術館を見学しました。名古屋城では江戸時代の人々の生活の様子を模型などからうかがい知ることができ、徳川美術館では大名道具などの展示物から、徳川氏のかつての繁栄を偲びました。

卒業論文中間発表

日本史 一〇月五日(月)～七日(水)
東洋史 一〇月二〇日(火)～二二日(水)
西洋史 一〇月一四日(水)～一六日(金)

秋季公開講座 一一月二二日(木)

J三二〇教室

冊封を通して見る中華王朝の国際感覚
応仁の乱中の京都―戦いの中の都市生活―

本学教授 檀上 寛
奈良大学元教授 下坂 守

コース分け説明会 二月一日(金)

本年度もお昼休みを利用して、一回生対象のコース分け説明会が行なわれました。配布されたお弁当を食べながら、日本史・東洋史・西洋史の先生方のお話を聞くという形になりました。先生方ひとりひとりがご自身の専門やその専攻で学ぶことを魅力的に語ってくださる中で、一回生は時に笑い声をあげたり、時にまじめな顔つきになったりと、様々な反応をしていました。きっと、それぞれ自分の一年後、二年後の姿を思い浮かべながら話を聞くことができただけでないかと思えます。

説明会終了後、入学当初希望していたのとは違うコースに魅力を感じたり、どのコースを選べばよいのだろうか迷ったりする一回生たちの姿が見られ、その姿に私たち史学会役員も、かつての自分たちの姿を重ねておりました。そうして真剣に迷って決めた過程や選んだコースは、大学生活の中で大切なものとなるはずです。その思いを胸に、残りの三年間で自分たちが選んだものを貫き通してほしいと思います。

卒業生予餞会 二月二日(月)

卒業論文の提出締め切り日、毎年恒例の予餞会が行なわれました。先生方と四回生が共に鍋を囲み、この日まで重ねてきた努力を互いにたたえ合いました。

論文や史料と向き合い、ゼミの先生との相談を重ね、卒業論文を書き上げるまでの道のりは長いものでした。しかし、友人たちと励まし合い、京都女子大学で過ごした四年間の総決算として努力を重ねたことは、他では得難い貴重な経験となったと思います。予餞会の時間を賑やかに過ごす四回生一同の表情は、卒業論文を書き上げた達成感に満ちていました。

来年度の四回生も笑顔でこの予餞会という日を迎えられるよう、後輩たちの学生生活もまた笑り多きものとなることを祈っています。

二〇一五年度 史学科講義題目

史学共通科目

講義

- 日本史概論A 告井准教授
- 日本史概論B 坂口教授
- 東洋史概論A 松井教授
- 東洋史概論B 檀上教授
- 西洋史概論A 桑山教授
- 西洋史概論B 本田教授
- 考古学 梶川講師
- 民俗学 徳永講師
- 日本美術史 山本講師
- 東洋美術史 竹浪講師
- 西洋美術史 吉田講師
- 歴史地理学 中村講師
- 人文地理学 飯塚講師
- 自然地理学 赤石講師
- 地誌学 古閑講師

講読

- 史学外書講読Ⅰ 坂口・谷口教授・木下講師
- 史学外書講読Ⅱ 谷口教授
- 漢文 菅沼・馬場・前田・森永講師
- ラテン語 桑山教授、岸本・佐野・疋田講師

演習

- 史学基礎演習A 坂口・松井・母利・山田教授
- 史学基礎演習B 桑山・谷口・檀上・本田教授
- 梅田・告井・早鳥准教授

日本史コース

特殊講義

- 基礎から学び直す東アジアの近現代史 坂口教授
- 日本の植民地問題を軸にして― 坂口教授
- 京都の近代
- ―その産業化と都市化をめぐる諸問題―

幕末維新の政局と京都

書跡資料、概論

- 坂口教授
- 母利教授
- 綾村教授

室町幕府とその時代

古代官人社会の展開

撰関期の歴史的位置

陰陽道からみる日本宗教史

陰陽道史研究の現在

いけ花の文化史―江戸時代まで

いけ花の文化史―明治時代以降

講読

日本史講読Ⅰ

日本史講読Ⅱ

日本古文書Ⅰ

日本古文書Ⅱ

演習

日本史入門演習

日本史演習Ⅰ

日本史演習Ⅱ

東洋史コース

特殊講義

クシヤン王朝の勃興とガンダラ美術の誕生

(大月氏 クシヤン ガンダラ美術 東西文化交流)

ガンダラ美術とキジル千仏洞壁画―仏教説話の展開(キジル 仏教説話 東西文化交流)

朝鮮古代史を考える(古新羅史)

古代東北アジア史を考える(高句麗史)

イスラーム時代西アジア史

イスラーム時代イラン史

天朝中国の天下構想

―中華と夷狄の興亡史―(前編)

天朝中国の天下構想

―中華と夷狄の興亡史―(後編)

天朝中国の天下構想

―中華と夷狄の興亡史―(後編)

天朝中国の天下構想

―中華と夷狄の興亡史―(後編)

天朝中国の天下構想

―中華と夷狄の興亡史―(後編)

天朝中国の天下構想

―中華と夷狄の興亡史―(後編)

- 早鳥准教授
- 告井准教授
- 告井准教授
- 梅田准教授
- 梅田准教授
- 小林講師
- 小林講師
- 母利教授、梅田准教授、佐竹・高井・田中講師
- 告井・早鳥准教授、木本・吉住講師
- 綾村・母利教授
- 母利教授、早鳥准教授
- 綾村・坂口・母利教授、梅田・告井・早鳥准教授
- 綾村・坂口・母利教授、梅田・告井・早鳥准教授
- 梅田・告井・早鳥准教授
- 小谷講師
- 小谷講師
- 田中講師
- 谷口教授
- 谷口教授
- 杉山講師
- 檀上教授
- 檀上教授
- 檀上教授

中国出土文字史料の検討
松井教授
中国古代・中世史を考へる
富谷講師

講読

東洋史講読Ⅰ 檀上教授、角谷講師

東洋史講読Ⅱ 桑山・本田・山田教授

東洋史講読Ⅲ 桑山・本田・山田教授

東洋史講読Ⅳ 岡本講師

演習

東洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授

東洋史演習Ⅰ 谷口・檀上・松井教授

東洋史演習Ⅱ 谷口・檀上・松井教授

西洋史コース

特殊講義

近代イギリス社会における事典・辞書作り
本田教授

イギリスによるインド支配の展開
本田教授

ローマ帝国の神々
桑山教授

ローマ帝国とギリシア文化圏
桑山教授

中世盛期・後期ヨーロッパ市場史研究
山田教授

近世ハプスブルクの君主と支配
加来講師

移民とアメリカ社会―同化と排斥の歴史―
常松講師

建国期アメリカの政治と社会
常松講師

コシチューシコとその時代(一)
常松講師

コシチューシコとその時代(二)
常松講師

コシチューシコとその時代(三)
常松講師

コシチューシコとその時代(四)
常松講師

コシチューシコとその時代(五)
常松講師

コシチューシコとその時代(六)
常松講師

コシチューシコとその時代(七)
常松講師

コシチューシコとその時代(八)
常松講師

コシチューシコとその時代(九)
常松講師

コシチューシコとその時代(十)
常松講師

コシチューシコとその時代(十一)
常松講師

コシチューシコとその時代(十二)
常松講師

コシチューシコとその時代(十三)
常松講師

コシチューシコとその時代(十四)
常松講師

コシチューシコとその時代(十五)
常松講師

コシチューシコとその時代(十六)
常松講師

西洋史講読Ⅲ 山田教授、園屋講師
西洋史講読Ⅳ 桑山教授

演習

西洋史入門演習 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅰ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅱ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅲ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅳ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅴ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅵ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅶ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅷ 桑山・本田・山田教授

二〇一五年度 卒業論文題目

日本史コース

相蘭 由佳 三井三池炭鉱における囚人労働―囚人労働の廃止と廃止後の状況―

青木香葉子 東京裁判唯一の文官死刑者 広田弘毅 かれの死刑は正当だったか

青木 真帆 長屋王の妾と藤原氏

穴原 冴子 日露戦争と外国債券―高橋是清の挑んだ国際金融―

有岡 京香 京都長崎問屋と糸割符、他問屋との関係性

井口 夏奈 津山藩における河川利用と船稼ぎ

石井 花奈 The record of the Ashi―カナダで活躍した日系ナイン―

井上 友美 耳囊における怪談・奇談について

猪木 諒子 平安時代における出産

井口 真帆 長崎丸山遊廓と異国人

大塚 璃沙 大津皇子の移葬

大槻 静香 藤堂高虎の築城について

岡部 桃子 毛利家感状―感状からみる毛利氏の権力―

奥 千鶴 江戸城無血開城―西郷の心に届いた天璋院の私事―一命にかけ―

尾島 柚香 西洋音楽と近代日本社会―明治期の音楽雑誌から考察する―

尾関 留奈 足利義政の人物像

一関 萌 古代の色彩感覚

川崎 羅葉 中近世における伊勢信仰の動向と武家の師檀関係

菊池 咲希 陸羯南の思想形成―「国民主義」について―

木谷 優希 近世賀茂社の仏教関係の実態

久保西真衣 土佐藩の郷士―性格の変遷及び階級意識について―

高津 梨紗 石清水八幡宮境内の遺跡について

小島 彩世 雅楽器における名器と人々

小林 由奈 王政復古における新政府への影響

合田ひかる 鯖江藩の婚礼儀礼―「澄姫様御縁組一件」を中心に―

坂井 華海 戦後日本の留日学生事業―「善隣学生会館」設立まで―

佐藤 史帆 豊臣政権と徳川政権の権力編成―朝鮮征伐と関ヶ原合戦―

佐藤 萌 平安時代の婚姻関係

産一 佐奈恵 親応の擾乱発端の背景について

斯波 香苗 皇女八十宮降嫁についての考察

下川 詩恵 近世日本の身分論について

新久保佳代子 ベルツの日本観―東京大学在職期間を中心として―

神藤 千穂 中世における芦屋釜の伝播

鈴木明日香 後藤新平の台湾統治方針

「国家衛生原理」にみる思想と「生物学の原理」―

鈴木 志帆 文明国となるために―刑法「皇室二對スル罪」と大津事件

瀬野 実咲 松尾の神を迎えた西七条

曾我 珠佳 「伊勢道中記」に見る伊勢信仰と旅の様子

曾我 祐子 京都高等女学校における育成しようとした女性像―朝倉晁瑞校長期の東山タイムスを用いて―

高倉由莉菜 聚楽第と京町家の姿

高橋 彩夏 叡尊の釈迦信仰と西大寺本尊
高橋 優 都市災害と住民―天明と元治大火の事
例から―

高森 裕菜 朝鮮語通詞と易地聘礼

田島 有華 鯖江藩の領知替と在地支配

田中 千晶 織田信長と長島一向一揆

田村 陽香 第二次奉直戦争と郭松齡事件から考
える幣原喜重郎の外交思想

津村 有彩 日本の義和団事件への出兵と目的の変
容

東川 育実 大乘院寺社雜事記に見る長谷寺と興福
寺

中川 由貴 尾張徳川家における政治意識

中西 真穂 政党政治の終焉―近衛文麿とメディア
報道―

中西 真理 東西の醬油

西尾沙也香 女院制成立の要因

西川 夢乃 平安時代における陰陽師の存在形態
―陰陽道の成立とともに―

西野 水歌 女性警察官の誕生―GHQと日本警察
改革―

花田 黎子 律令制下における領層制度

林 紫織 朝政の変化からみる古代日本の夜化

林 佑香 平等院建立の意義

柗 遙香 近世における猫像

細谷 葵 天皇と摂関政治―花山期において―

前田 梨佐 元正天皇の政治的影響力について

牧野 七菜 内山永久寺にみる廃仏毀釈

牧野 智香 大名家の奥向―男性役人に注目して―
女性と近代化―福澤諭吉『女大評論』

松本 笑笑 新女大学』をもとに―

藤井 遼 近世細川氏の菩提寺信仰

光安 愛佳 蘇我氏の仏国建国

美濃島由依 修身教育の実際―第二期国定修身教科
書下において―

中明侑莉子 「少女歌劇はなぜ百年も続いたのか」

矢野 幹奈 法華八講からみる洛中等持寺

山崎有里子 近世の寺子屋教育―土佐藩を中心に―

山下 千晶 井上成美の教育思想―海軍兵学校で受
けた教育と教えた教育―

山下 夏輝 『政基公旅引付』にみる戦国期の荘園
―「下向」に着目して―

山西もえの 一夫多妻制の成立と変遷

横内亜寿美 元田永孚、井上蕃の教育思想―教育勅
語の作成過程を追って―

吉田 美紀 古代日本の「公」

吉田 結葉 法性寺から東福寺への移行期における
一考察

吉田 有紀 近世農村労働から見る女性の地位

和田 幸恵 近世の大名庭園―六義園を中心に―

東洋史コース

阿部千紗音 香港人アイデンティティ―形成過程と
意識変化の考察―

飯村 円 禹の諸相―信仰の広がりとその要因―

糸賀 千恵 西晋の呉の平定

井上 悠 新疆ウイグル自治区における双語教育
政策

井上 磨末 南京大虐殺事件

内山智香子 孫文の民族思想―滅滿興漢から中華民
族―

大串 菜奈 隋唐における和蕃公主降嫁の質的比較
と歴史的意義

岡崎佳奈恵 二・二八事件からみる台湾人の対立
―劉秀集團の形成過程について―

梶本 賀世 清末のキリスト教布教活動と天津教案
―開港後の租界設置と関連して―

川口 理香 アメリカ植民地期のフィリピン―英語
教育からみるアメリカの意図―

北尾みなみ オスマン帝国のギリシア人―アブデユ
ルハミト二世期を中心に―

小泉 実穂 後漢末の五斗米道政権について

小谷 奈穂 朝鮮王朝の仮面劇にみる社会風刺―身
分制度の同様と関連して―

三枝 莉佳 琉球における華僑が果たした役割

鹿田 結女 吐蕃の対唐関係における和蕃公主の意

神馬みずき

義 鈴木深由希 雍正帝による八旗改革の意義

辻井 愛咲 石原完爾の理想と現実―東亞連盟の構
想をめぐって―

土佐 祥加 『紅樓夢』の中の侍女―宝玉の侍女・
襲人を中心に―

中畑亜香里 南宋の「都」臨安

中村 美穂 鎮守宦官と関防印の関係性について

長尾 奈美 隋の煬帝の再評価―「暴君明君論」を
めぐって―

浜田 理沙 国境線にみるカシミール紛争

松澤 香奈 毛沢東の理想と人民公社

村上 佳那 湖南省における変法自強運動

八木 菜月 入唐求法巡礼行記に見る円仁と在唐新
羅人

山田 温子 イラン亡命期におけるガアワ党

山田 恵子 ブミプトラ政策によるマレーシア社会
の影響

横山 玲奈 明代南北卷成立とその変遷

和田 悠海 初期アッパース朝における占星術と帝
国イデオロギー

西洋史コース

市村 恵海 北アイルランド紛争と長期化の理由

井上ころ 中世後期スイス盟約者団の対立と連帯

大川 莉果 アヴィニオン教皇庁の歴史的意義

岡村 美幸 第一次ポエニ戦争後のカルタゴ―バル
カ家の上昇―

小原 志織 テンプル騎士団の拡大―西ヨーロッパ
のコマンドリーを中心に―

織田 佑希 同盟市戦争とローマ市民権

木谷 結衣 古典期アテナイにおけるヘタイラの社
会的地位

熊本 悠美 断頭台にのぼったフランス王妃

小島 佑理 一八世紀フランスのサロンと社交

小森麻祐子 ウイリアム二世期ノルマン貴族の動向

庄田 華代 ―ベレーム領主ロベールを中心に―
シエナのノーヴェ体制―平民と豪族―

鈴木 茉莉 一八世紀後半オーストリアの教育改革
―初等教育を中心に―

鈴木 実真 古代ガリアにおける王権の変容
宗田 真白 何故エカチエリーナ二世は成功したのか

高城佑可子 交通革命と近代ドイツ社会
竹内 綾奈 ナチスと向き合う戦後ドイツ

田島 響子 一二世紀初期フランドル伯領の動乱
立石夏奈子 一八世紀ドイツにおける出版文化と書籍市

角井 琴美 一四世紀フイレンツェにおける政変と
秩序―アテネ公の時代―

富永 史乃 愛国心と戦争協力―イギリス人女性の
第一次世界大戦―

中村 郁美 革命期フランスの救貧行政
萩原 友紀 アル・アンドルスのキリスト教徒

濱垣 桃子 共和政ローマにおける剣闘士競技の世
俗化

平山 飛鳥 モントゴメリー・バス・ポイコット
―ポイコット運動の意義と運動にお
ける黒人女性の重要性―

牧野 実佳 ドイツ帝国の誕生とプロイセンの解消
松川 優希 一八世紀フランスの『ガゼット』紙と
ジャーナリズム

道倉 七瀬 グロスター公リチャードと北部イング
ランド―『篡奪』の基盤―

安田 莉子 古代エジプトの王権―初期王朝時代か
ら古王国時代を中心に―

吉原 祐美 コンスタンティヌスとその宗教政策

二〇一五年度 大学院文学研究科

史学専攻博士前期(修士) 課程講義題目

特論

日本古代史料研究

古代文書研究

歴史資料関係論文の分析

告井准教授

告井准教授

綾村教授

歴史資料関係史料の分析
綾村教授

中世・織豊期の基本的文献研究
早鳥准教授

近世の神道と陰陽道
梅田准教授

近世京都の寺社と社会
梅田准教授

鶴見良行著『ナマコの眼』を読む
母利教授

古文書の理解と読解
河内講師

古記録の理解と読解
河内講師

周王朝の国制研究
松井教授

元代沿海地域社会の諸問題
檀上教授

明代沿海地域社会の諸問題
檀上教授

中国語文獻講読―中国前近代史―
村井講師

中国語文獻講読二―中国前近代史―
村井講師

中国語文獻講読三―中国前近代史―
村井講師

※中国古代・中世史の諸問題
富谷講師

※前近代アラブ地域のウラマー
谷口教授

※中国語文獻講読四―中国前近代史―
谷口教授

※末期ロシア帝国のナシヨナリズムと戦争
伊藤講師

※一八世紀フランスの黒人奴隷制論争
王寺講師

フラウイウス朝の成立と展開(一)
桑山教授

フラウイウス朝の成立と展開(二)
桑山教授

中世ヨーロッパ市場論の研究
山田教授

中世ヨーロッパ市場論の研究(続)
山田教授

一九世紀後半・二〇世紀初頭の英米関係の社会史
山田教授

一九世紀後半・二〇世紀初頭の英米関係の社会史
山田教授

一九世紀後半・二〇世紀初頭の英米関係の社会史
山田教授

一九世紀後半・二〇世紀初頭の英米関係の社会史
山田教授

※コシチュエーシコとその時代(一)
本田教授

※コシチュエーシコとその時代(二)
本田教授

―ヨーロッパ東部辺境からみた環大西洋革命―
小山講師

※コシチュエーシコとその時代(二)
小山講師

―ヨーロッパ東部辺境からみた環大西洋革命―
小山講師

現代史の開幕―一九二〇年代のアメリカ政治を中
心に

一九二〇年代のアメリカ社会
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

常松講師
常松講師

中村みどり 九〇十世紀における内親王の役割と影響
響―入内から降嫁へ―

二〇一五年度 修士論文題目

五十嵐 希 寛政期小浜藩の海防政策
岩崎 未生 殷王田胤の意義についての一考察
大塚 祥子 豊臣政権における西国の統一過程
―対外調略における「八幡大菩薩」の意義をめぐって―

楠本 里帆 「大逆事件」の抗議運動による北米日本人社会への影響―北米日本語新聞を例として―

小林 望 「建安文学」攷―三曹七子の虚像―
富澤 衣香 ナビス期スパルタの国家再興政策
中村早知恵 佐賀藩における手明鐘の実態
野本祐里子 西周青銅器銘にみえる賜与物
森本 奏恵 エリザベス一世の政治的自己表象―初期議会演説と大学巡幸―

二〇一五年度 大学院行事

卒業論文発表会 四月二二～二四日

岡山藩主池田茂政の往復書状の分析―
国事周旋関係を中心に―
M1 木村真由美
近世下鴨社と社家―その組織と運営―
M1 高原 雅美
朝鮮における近代公娼制度―朝日新聞外地版からみる―
M1 武藤 花
中国古代の復讐観 M1 國武 萌
ブランドンブルクIIプロイセンにおける国家形成 M1 佐々木 滯
日本中世禅宗寺院における賜額 M1 日種 真子

平安初期の儀式にみる芸能
―相撲儀式― M1 田口 愛実
大学院歓迎会 四月三〇日
Public house 177

春期例会 六月一八日

一代一度仏舎利使について―即位儀礼にみえる仏舎利信仰―
D1 大原 眞弓
一九二〇―三〇年代のブラジル・ノロエステ地方における珈琲早害低利資金貸付問題について
特別研修者 半澤 典子

秋期例会 一〇月一四日

東晋南朝期における避諱

D3 織田めぐみ

修士論文中間発表会 十一月二一～二三日

「大逆事件」への諸外国の抗議運動と日本政府の対応―北米邦字新聞を例として―
M2 楠本 里帆
殷代田胤の意義についての一考察
M2 岩崎 未生
「建安文学」攷―三曹七子の虚像―
M2 小林 望
佐賀鍋島藩における手明鐘の実態
M2 中村早知恵
寛政期小浜藩の海防体制について
M2 五十嵐 希
豊臣政権と朝廷・寺社―
―祈禱を中心に―
M2 大塚 祥子
西周中期賜与物再考―身分との関連―
M2 野本祐里子
エリザベス一世治世初期の統治をめぐる自己表象―議会演説と巡幸を中心

に― M2 森本 奏恵
ナビス期スパルタの国家再興政策 M2 富澤 衣香

研究室だより

今年度、史学科は一三五名の入学生と一名の編入学生を迎えました。一月現在で、文学部史学科の在籍学生数は、一回生一三五名、二回生が一二六名、三回生が一三八名、四回生が一四三名、五回生以上が一名で、合計五五三名となっています。
一回生の二年次以降のコース分けはほぼ定まり、日本史七七名、東洋史一九名、西洋史三七名となっております(休学による調査票未提出者二名)。
大学院については、前期課程に八名、後期課程に一名の新入生が加わりました。その結果、前期課程は、一回生八名、二回生九名、三回生一名の計一八名となり、後期課程は、一回生一名、二回生三名、三回生一名の計五名となりました。さらに、特別研修者五名、研修者三名を加えた合計三一名が在籍し、研究に取り組んでいます。
専任教員は、日本史六名、東洋史三名、西洋史三名の計一二名で、コース別の構成も昨年度と変わりませんが、西洋史コースに異動がありました。まず昨年度末で定年退職された常松洋教授は、今年度より名誉教授となられましたが、引き続き非常勤講師として特殊講義の担当を願っています。常松教授の後任には、近代イギリス史が御専門の本田毅彦教授をお迎えしました。また、山田雅彦教授は、本年度から文学部長に就任され、多忙な毎日を送っておられます。さらに、桑山由文准教授が本年度より教授に昇進され、西洋史コースは教授が三名となりました。史学科全体では教授が九名、准教授が三名ということになります。
事務職員では、三年にわたり史学科関係の事務を担当してくださった端口智美さんが昨年度退職され、今年度より松田亜由美さんがその後任として学部事

務課丁校舎分室に着任されました。

さいごに、ほぼ四半世紀にわたって本学で教鞭をとってこられた檀上寛教授が、本年度末をもって定年退職されます。研究はもろんのこと、学部と大学院での教育、学部長としてのお仕事をはじめとする校務にも尽力されました。長年にわたるお勤めお疲れ様でした。史学科を代表して御礼申し上げます。(二月一六日記 史学科主任 谷口淳一)

学芸委員

二〇一五年度の学会運営に協力して下さった学芸委員は次の方々でした。例年通り史学会諸行事の企画から運営まで、全般に渡って支えていただきました。篤くお礼申し上げます。

委員長	日本史三回生	秋山 栞穂
副委員長	日本史三回生	賀子 夏帆
會計	日本史三回生	後藤 真実
書記	日本史三回生	田村 眞結
広報	東洋史三回生	松田ひかる
	日本史三回生	武藤 真由
	東洋史二回生	草川 夏穂
	西洋史二回生	清水 紗恵
	日本史二回生	高原 真由
	西洋史二回生	玉川 千尋
	日本史二回生	野田 真由
	日本史二回生	橋野いおり
	一回生	池田 凜
	一回生	小田今日子
	一回生	近藤 まゆ
	一回生	高橋 美帆
	一回生	豊田 結花
	一回生	藤井菜々子

京都女子大学史学会会則

(二〇〇三年三月二〇日制定)

(名称)

第一条 本会は、京都女子大学史学会と称する。

(事務局)

第二条 本会の事務局は、京都女子大学文学部史学研究室に置く。

(目的)

第三条 本会は、史学に関する諸問題を研究し、もって学会に寄与することを目的とする。

(会員)

第四条 本会は、京都女子大学文学部史学科の専任教員および本会が特に認めた者をもって組織する。

(事業)

第五条 本会は、第三条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1 機関誌『史窓』の発行。

2 講演会、研究発表会。

3 その他必要な事業。

(代表)

第六条 本会代表を一名置く。代表は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。その構成員は以下のとおりとする。

1 編集委員長 一名

2 編集員 若干名

(総会)

第八条 本会の総会は、一年に一回以上開催し、本会の重要事項を議決する。

(事業費)

第九条 本会の事業費は、京都女子大学学会・機関誌刊行経費、その他をもつてこれに当てる。

(会則の改廃)

第十条 この会則の改廃は、総会の議決を経て実施する。

附則 この会則は、二〇〇三年四月一日より施行する。

『史窓』に関する規約

(二〇〇三年三月二〇日制定)

第一条 京都女子大学史学会(以下「本会」という)は、機関誌として『史窓』(以下「本誌」という)を刊行する。

第二条 本誌への投稿資格者は、本会会員および『史窓』編集委員会が特に認めた者とする。

第三条 原稿は、未発表のものに限る。

第四条 本誌に掲載された作品の著作権は、本会に属する。

第五条 執筆要項などの細則は、別に定める。

第六条 この規定の改廃は、編集委員会の議決を経て、総会の承認を経て実施する。

附則 この規約は、二〇〇三年四月一日より施行する。

編集後記

『史窓』第七三号をお届けします。本号では、菅沼氏が従来から取り組んでこられた唐代七・八世紀の東部ユーラシア世界の研究を九世紀へ展開された論考、明代の海上貿易関係の事務を所管する市舶太監における税監設置についての大川氏の論考と、諸事情により東洋史二本のみの論文収録となっていました。積極的なご寄稿をお願いします。

また、檀上寛教授が本年度をもってご退職されるため略年譜・著作目録を載録しました。来年度も大学院講義にご出講をお願いしますが、これからは多方面での活躍をお祈りします。

なお、『史窓』の全文は、京都女子大学学術情報リポジトリ(京女AIR)で公開しております。(母利)

執筆者紹介

菅沼 愛語 本学非常勤講師
大川 沙織 本学大学院博士前期課程修了生

編集委員

母利 美和 (委員長)
桑山 由文
谷口 淳一
早島 大祐

史窓 第73号

二〇一六年二月四日 印刷
二〇一六年二月十日 発行

編集 『史窓』編集委員会

発行 京都女子大学史学会

京都市東山区今熊野北日吉町三五
京都女子大学文学部史学研究室内
〒605-0855 (〇七五) 五三一―九一〇〇
代表者 谷口 淳一

印刷 株式会社印刷同朋 舎

京都市下京区中堂寺鍵田町二
〒605-0855 (〇七五) 三六一―九一二一

※掲載内容の著作権は、京都女子大学史学会に帰属
します。